令和５年度地震・津波防災訓練
（内閣府・北海道釧路町）

実施報告書
（概要版）

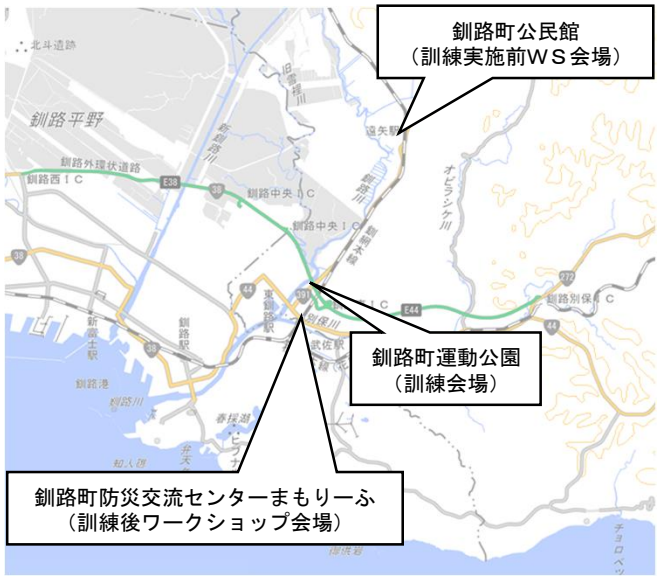
北海道釧路町について

北海道の南東部に位置する釧路町は、総面積の約80%が山間地帯で、残りの20%が釧路平原および泥炭地から成り立っている。南東部の海岸線は、国定公園に指定されており、集落が点在している。北西部は釧路湿原に接しており、丘陵台地の麓に沿うように流れる釧路川流域沿いに市街地形成されている。中央部は大部分が丘陵台地であり、別保川、オビラシケ川流域に市街地が形成されている。

釧路沖は、地震活動が活発でこれまでにM7クラスの地震が多数発生し、地震・津波による被害を及ぼしてきた。

今後想定される千島海溝沿いの巨大地震では、道内で最も高いと予想される最大26.5メートルの津波が押し寄せる可能性がある。このようなリスクに備え、釧路川に近い市街地には、約1,600人が避難できる津波避難タワーを4基建設する計画が進行中である。

町は、防災関係機関、地域の自主防災組織等と協力し、防災教育及び避難意識向上のための啓発を行い、津波に対する防災意識の向上を図っている。



出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和5年10月14日（土）午前9時、十勝沖を震源とするマグニチュード8超の地震が発生、北海道釧路町において最大震度6強を観測、大津波警報が発令されるという想定のもと訓練を実施した。

■実施日時：【訓練実施前WS】　令和5年9月23日（土）13:00～15:30
【地震・津波防災訓練】令和5年10月14日（土）09:00～13:00
【訓練実施後WS】　令和5年11月29日（水）18:00～19:30

■主　　催：北海道釧路町、内閣府

■参加者数：325名

■参加機関：町内全域の自治会、自主防災組織等、北海道釧路総合振興局、釧路警察署、釧路消防署、陸上自衛隊

■訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、避難所開設訓練、福祉避難所輸送訓練等

■訓練の特色：津波避難訓練に続いて、関係機関の展示、各種訓練の実施。

訓 練 の 成 果

【成果】
〇国、気象庁と連携して企画し、自衛隊、消防署、警察署等諸団体の協力で訓練を開催した。各種機関と連携し避難訓練後に、イベント的な各種訓練を実施、体験、見学することで、防災意識への向上に寄与するものと期待される。
〇訓練実施前ワークショップでは、被災体験講話として東日本大震災の被災地の方からの講演、地元中学生による防災小説の発表等を通じ、津波被害に対する危機意識を持つことができた。
〇避難訓練時に、避難者が自宅で用意している避難袋を持参、靴、服装を装備して避難する等、避難意識が高い様子がうかがえた。

【課題】
●最悪の想定、夜中の対応、初期行動等の検討が必要である。季節、発生時間により行動が変わるので、専門家の方の意見を伺いながらすすめる必要がある。
●実際の災害時には、消防や自衛隊もすぐには救助に来られないことや、行政職員の被災も考えられるため、住民が自分で命を守る行動をとることが大事になる。
●広域災害に備え各関係機関と連携した訓練を継続していく実施していく必要がある。

９月23日（土） 13:00～15:30 訓練実施前ワークショップ

- 被災体験講話として東日本大震災の被災地の方からの講演、地元中学校の生徒による防災小説の発表を行った後、防災パネルディスカッションを行った。
- 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震後発地震情報に関する情報提供を行い、地震津波防災について理解を深めた。

▼総括アドバイス（北海道大学　谷岡特任教授）

▼パネルディスカッションの様子

10月14日（土） 09:00～13:00 地震･津波避難訓練

- 10月14日（土）午前９時に巨大地震が発生し巨大津波が襲来する想定の下、セチリ太地区内でシェイクアウト訓練、津波避難訓練及び避難所開設訓練等を行った。
- メイン会場の釧路町運動公園、釧路町総合体育館では、段ボールベッドの組み立て練習、避難所体験訓練、各種パネル展示等を行い、最後に訓練の振返りを行った。

▼避難訓練

▼要支援者避難訓練

▼津波実験装置体験（屋内展示）

▼炊き出し訓練

▼振返り

11月29日（水） 18:00～19:30 訓練実施後ワークショップ

・地震・津波防災訓練の振り返り、アドバイザーの先生による釧路町での防災訓練の講話を行ったあと、防災学習ツールを用い、グループ毎にシミュレーションゲームを行った。特に津波避難に関する現状の問題点や大事な点等について、認識の共有を図った。

▼ワークショップの様子

令和５年度地震・津波防災訓練
（内閣府・青森県おいらせ町）

実施報告書
（概要版）

青森県おいらせ町について

おいらせ町は青森県の東南部に位置し、南部を十和田湖から奥入瀬川が流れ太平洋に注いでいる。平均気温は10.9℃と比較的冷涼で、冬季は気温が低くなるものの降水量が少ないことが特徴で、青森県内で最も雪が少ない地域である。人口は、約2万5千人で、町内には、自然、農地、商業地、工業地、住宅地がバランス良く配置されている。

東日本大震災時には、最大震度5強の揺れと推定8メートルの津波が町に深刻なダメージを与えた。この経験を踏まえ、町では防潮堤の嵩上げや避難路の整備など、様々なハード事業を進めており、更なる大地震や大津波に備えている。

令和3年5月に公表された青森県津波浸水想定では、海岸線の代表地点における第一波到達時間が以前より16分早い35分と想定されており、町民への更なる津波避難計画の周知と津波から迅速に避難するための訓練の実施が重要となってきている。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：10月29日（日）9：00に青森県東方沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生し、おいらせ町は震度6強を観測、9：03に青森県太平洋沿岸に大津波警報が発令されるという想定のもと訓練を実施した。

■実施日時：【訓練実施前WS】　令和5年10月11日（水）14:00～15:45
【地震・津波防災訓練】令和5年10月29日（日）08:00～11:45
【訓練実施後WS】　令和5年12月6日（水）14:00～16:00

■主　　催：おいらせ町、内閣府

■参加者数：118名

■参加機関：町職員、消防団、自主防災組織、対象地区住民、おいらせ町赤十字奉仕団、おいらせ町災害ボランティア連絡会等

■訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、避難所開設初動訓練、炊き出し訓練等

■訓練の特色：第一波到達時間35分以内に浸水想定区域外の安全な場所に避難できるかの計測を行う。

訓 練 の 成 果

【成果】
〇令和3年に更新された青森県津波浸水想定の第一波到達時間35分以内の避難を目標に掲げ、百石中学校区の住民を対象とした津波避難訓練を実施した。地域の実情に合わせて、13 カ所の避難目標地点を設置し避難時間を計測した。あらかじめ、地震発生と大津波警報発表の時間を周知していたため、速やかに避難行動に移ることができ、95%が時間内に目標地点に到達することができた。
〇訓練を実施することで、避難の実効性にかかる具体的な課題を明確化することができ、今後の町津波避難計画等の見直しの検討課題の抽出に資することが出来た。
【課題】
●想定時間内に避難できなかった人には、原因として適切な避難目標地点を選択できなかったことが考えられる。避難所や避難場所にとらわれず、最寄りの浸水想定区域外への避難を優先することについて、様々な機会を通じて周知する必要性がある。また、物理的に想定時間内の避難が難しい方へは、緊急避難施設への避難や車両避難、状況別の避難経路などを事前に想定していただく等の対応が必要である。
●積雪期や深夜など様々な想定に基づく避難訓練についても検討実施する必要がある。
●狭い道が多い、年季の入った建物が崩れる可能性等、最短ルートが通れないこともあるということを認識する必要がある。最寄りの避難場所だけでなく、周辺の他の避難場所を目指した場合の所要時間、周辺の環境（冬場の滑りやすさや、広さの確認等）の確認が必要である。

10月11日（水） 14:00～15:45 訓練実施前ワークショップ

- 地域の防災力向上に向けた取組への講和を行ったあと、「所要時間35分（避難可能時間32分）以内に安全な場所まで避難できるか」をテーマにワークショップを行い、地区ごとに避難場所、避難経路の確認を行った。
- 日本海溝千島海溝周辺海溝型地震後発地震情報に関する情報提供を行い、地震津波防災について理解を深めた。

▼総括アドバイス
（岩手県立大学
杉安副センター長）

▼ワークショップの様子

10月29日（日） 08:00～11:45 地震･津波避難訓練

10月29日（日）9：00に青森県東方沖を震源とするマグニチュード9.0の地震が発生し、おいらせ町は震度6強を観測し、9：03に青森県太平洋沿岸に大津波警報が発令されたという想定のもと、町内対象地域でシェイクアウト訓練、津波避難訓練、避難所開設初動訓練等を行った。
避難訓練終了後、メイン会場のいちょう公園体育館にて訓練の結果報告、意見交換、炊き出し訓練を実施した。

▼一時避難場所等への津波避難訓練

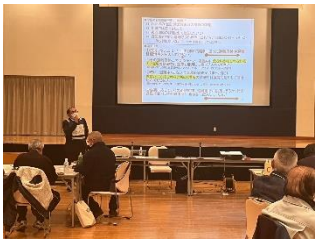
▼訓練報告会

▼炊き出し訓練

12月６日（水） 14:00～16:00 訓練実施後ワークショップ

・地震津波防災訓練の振り返りを行った後、アドバイザーの先生による「避難訓練を終えての改めて取り組むべき地区防災活動」の講和を行い、グループ毎のディスカッション及びグループ代表者による発表を行った。今回の避難訓練を通して各地区の地震・津波襲来時の避難の課題、訓練で検証できたこと、次回以降の課題として検証したいこと、要配慮者対応等について確認を行った。

▼ワークショップの様子



令和５年度地震・津波防災訓練
（内閣府・福島県広野町）

実施報告書
（概要版）

福島県広野町ついて

福島県広野町は福島県浜通りの南部にある自然豊かなまちである。太平洋と里山に囲まれた市街地には生活に必要な施設がコンパクトにまとまっていて「田舎すぎない田舎」である。

東北地方には寒いイメージがあるが、広野町は温暖で寒暖差が少ない気候で冬場でも積雪がほとんどなく一年通して過ごしやすい。

農業では水稲に力をいれており「ひろの米」などの特別栽培米などがある。東北ではめずらしくみかんやバナナも栽培されていて6次化商品づくりにも取り組んでいる。

そんな広野町を２０１１年３月１１日１４時４６分、三陸沖を震源とする国内観測史上最大規模の大地震（Ｍ９．０）が襲った。東日本大震災である。広野町は２分程度の激しい横揺れに襲われ、震度６弱を観測した。

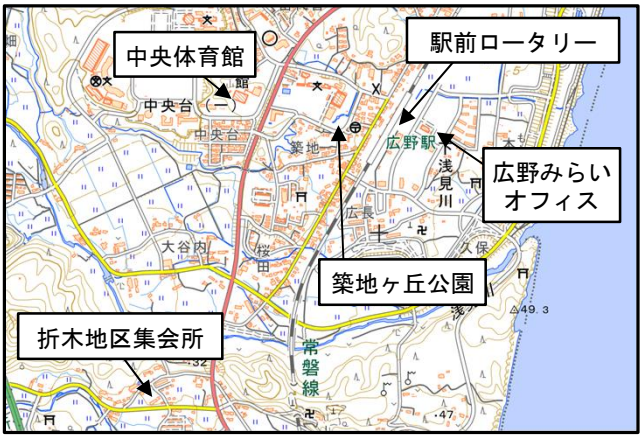
地震発生からおよそ４５分後に推定９ｍの津波が押し寄せ、沿岸部において甚大な被害をもたらし、まちの電気や上下水道などのライフラインは壊滅状態に陥った。

広野町は復興に向けて、海岸堤防のかさ上げ、防災緑地、道路、土地利用の再編など複数の整備手法を組み合わせた「多重防御」による津波高潮対策等に取り組み、「総合的な防災力の高いまちづくり」に向けて機能強化を図った。

さらに、大震災の翌年２０１２年から毎年、防災訓練を実施して防災力の向上に努めている。

【福島県広野町の所在地】

【訓練実施会場（５ヶ所）の所在地】



出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和5年10月22日午前9時30分に福島県沖を震源とする震度5弱の地震が発生し、沿岸部に津波警報が発令され、津波から避難するため、一時避難場所である「築地ヶ丘公園」・「折木地区集会所」へ早急に避難をする必要がある。

■実施日時：【訓練実施前WS】　令和5年　9月23日（土）13：00～15：00
【地震・津波防災訓練】令和5年10月22日（日）　9：00～12：00
【訓練実施後WS】　令和5年12月　2日（土）13：30～15：30

■主　　催：広野町／広野町消防団／広野町婦人消防隊

■共　　催：内閣府／福島県

■参加者数：訓練実施前WS：　11名／訓練：180名／訓練実施後WS：11名

■訓練項目：シェイクアウト訓練，津波避難訓練，避難テント開設訓練，専門家講話等

■訓練の特色：東日本大震災の被災地として、津波の脅威を再確認するとともに関係機関と連携して実践的な避難訓練を行う。更に、宇都宮大学の近藤准教授（アドバイザー）に講話頂き、防災意識の高揚を図る。

訓 練 の 成 果

○訓練実施前ワークショップでは、東日本大震災の被害状況を資料や映像等で再確認して避難の重要性について学ぶことができた。さらに、避難場所、避難経路、災害時に取るべき避難行動を確認することができた。

○地震・津波防災訓練では、一時避難場所への集合、指定避難所への避難、オフィスビルへの垂直避難を実施した。参加者は概ね津波到達想定時間内に避難を完了することができた。さらに、負傷者搬送訓練、要支援者の避難補助訓練、避難テント開設訓練等を行った。参加者は総合的な訓練を体験することができ、防災意識を高めることができた。

○訓練実施後ワークショップでは、訓練当日の避難行動を振り返り、今後の課題を抽出した。行政、地域、個人の防災活動の今後の取り組み内容を明確化できた。

【課題】

●チラシ等でワークショップと訓練の周知を図ったものの参加者数が少なかった。周知方法について検討が必要である。

●訓練参加者に津波到達想定時間内に避難完了できなかった人がいた。また、避難経路上に危険個所があるとの指摘があった。原因の把握と代替となる避難場所、避難経路の検討が必要である。

●要支援者の避難に対して、共助と公助それぞれの支援範囲、役割分担について調整する必要がある。

●新たに安否確認訓練の要望があった。仕組み、体制等を検討する必要がある。

令和５年９月２３日(土) １３：００～１５：００　訓練実施前ワークショップ

・参加者をグループ分けしてアドバイザーの指導の下で「東日本大震災の津波被害」「自主防災組織」「避難経路」に関するグループワーク等に取り組んだ。

・アドバイザー、広野町役場担当者らが各グループを回って活発な議論を促した。

・防災訓練に向けて参加者の防災への理解を深めた。

▼グループワークの取り組み

▼グループワーク発表

令和５年１０月２２日(日) ９：００～１２：００ 地震・津波防災訓練

・「令和５年１０月２２日午前９時３０分に福島県沖を震源とする震度５弱の地震が発生し沿岸部に津波警報が発令された」との想定で、災害対策本部設置訓練、シェイクアウト訓練、垂直避難訓練、負傷者搬送訓練、津波避難訓練、避難テント開設訓練、専門家講話等が実施された。

・実施会場は広野みらいオフィス、駅東ロータリー、築地ヶ丘公園、折木地区集会所、中央体育館の５ヶ所である。

・広野みらいオフィスでは垂直避難訓練駅東ロータリーでは負傷者搬送訓練に取り組んだ。

・一方、住民は自宅から一次避難所の築地ヶ丘公園と折木地区集会所に避難移動、その後、中央体育館に集合した。

・中央体育館では避難テント開設訓練、防災専門家による講話が行われた。

▼垂直避難訓練

▼負傷者搬送訓練

▼津波からの避難

▼要支援者の避難補助

▼避難テント開設訓練

▼防災専門家の講話

令和５年１２月２日(土) １３：３０～１５：３０ 訓練実施後ワークショップ

・「防災訓練の振り返り」「訓練の位置付け」「訓練の課題」に関するグループワーク等に取り組んだ。

・最初に訓練を振り返ることによって、続く２テーマの議論が活発に展開された。

・訓練後ワークショップによって、参加者の防災訓練の効果が増強されるとともに、防災意識が更に高まった。

▼宇都宮大学 近藤准教授（アドバイザー）の講話

▼グループワーク発表

令和５年度地震・津波防災訓練
（内閣府・三重県紀宝町）

実施報告書
（概要版）

三重県紀宝町について

三重県紀宝町は、紀伊半島の南東部に位置し、南は和歌山県新宮市と接している。

吉野熊野国立公園の一部であるとともに、「紀伊山地の霊場と参詣道」として、町内の「七里御浜」「熊野川」「御船島」が世界遺産に登録されている。七里御浜には道の駅「紀宝町ウミガメ公園」がある。

町の面積は約80平方kmで、北西部は紀伊山地につながる山域で、中央部には熊野川に合流する相野谷川が流れ水田やみかん畑が広がる。南東部は港湾を利用した製紙工場や製材工場などが立地している。町の人口は約1万人。

町の沿岸部は、周期的に起こる地震や津波により、過去に大きな被害を受けているため、「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定され、さらに陸上において津波により30cm以上の浸水が地震発生から30分以内に生じる地域とされていることから「南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域」に指定されている。

町は「防災の日常化」という概念のもと、「地震・津波による死者数を限りなくゼロに近づける」を目標に、特に「要配慮者に最大限配慮した津波避難対策」「災害時応援協定市町村、防災関係機関等との連携による広域的な応援・受援体制整備」を重要課題とした対策に取り組んでいる。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和5年11月5日（日）午前9時、南海トラフを震源域とする巨大地震が発生。本町において最大震度7、約3分間の揺れが続き、5分後に最大11mの津波が到達し浸水想定区域が浸水。また広範囲で家屋倒壊や土砂崩れが発生し、救助事案が発生したとの想定。

■実施日時：【訓練実施前WS】　令和5年10月6日（金）18:00～20:00
【地震・津波防災訓練】令和5年11月5日（日）09:00～12:00
【訓練実施後WS】　令和5年11月5日（日）13:00～15:00

■主　　催：紀宝町、三重県、内閣府

■参加者数：約2,200名

■参加機関：町内全域の自治会、自主防災組織、紀宝警察署、熊野市消防本部、消防団、建設業組合、国土交通省、陸上自衛隊、海上保安庁、等

■訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、避難所開設訓練、炊出し訓練、等

■訓練の特色：地震発生から5分以内に全員が屋外に出て避難開始を重点に訓練

訓 練 の 成 果

【成果】
○「犠牲者ゼロ」に向けた地震・津波訓練のプログラムが、全町で着実に実施された。特に訓練実施前ワークショップでは鵜殿区の「地震・津波ルールブック」の読み合わせを通し、地震・津波に向け各家庭でのタイムライン策定の重要性が認識された。
○訓練には約2,200人の参加があり、全町で地震・津波防災に向けての機運醸成を行うことができた。また高齢者や子供連れ家族などが多く参加されており、町が重要課題と認識してきた要配慮者への最大限の配慮、そして今後の若年層の防災活動への参画に向けて明るい要素が伺えた。
○訓練実施後ワークショップで論点となった、新しい医療拠点の新設などの検討を来年度以降行っていくことを通じて、本町における「犠牲者ゼロ」の目標達成が近づく方向性が見えてきた。
【課題】
○今回、一部の海岸沿い地域で実施された「家族と私の命を守る地震・津波タイムライン」の作成への参画に、訓練参加者の多くが肯定的であることをふまえ、他地域にも同タイムライン作成を広げていくことが望まれる。
○全町での発災時情報把握には今回のような情報システムの活用が欠かせない。訓練時だけでなく実災害時でも機能する運用を普段から確保していく必要がある。
○今後は世界遺産である熊野古道などへの外国人を含む多くの観光客の増加が予想され、紀宝町への訪問客も増えると想定される。防災に係る啓発や町内滞在者への注意喚起での外国語対応も望まれる。

10月６日（金）18:00～20:00 訓練実施前ワークショップ

・町役場近辺に位置し海岸に面する鵜殿区の「地震・津波ルールブック」の読み合わせを行った。同ルールブックは命を守る行動スケジュールである「地震・津波タイムライン」を各家庭単位で書き足して完成となる。
・アドバイザーからは、改めて「犠牲者ゼロ」を目指すために停電への備えや避難タワーなどの整備とともに、今回参加されていない住民の方への参画を引き続いて働きかけるべきことが強調された。

▼防災専門家
（東京大学松尾客員教授）

▼ワークショップの様子

11月５日（日）09:00～12:00 実動訓練（シェイクアウト訓練・津波避難訓練）

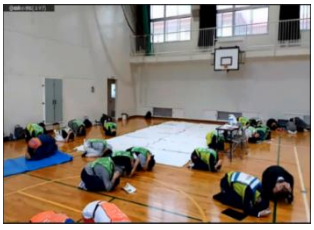
・９時の訓練開始の防災行政無線でのアナウンスとともにシェイクアウト、そして揺れが収まった　9：03から地区ごとの避難所への避難訓練が行われた。

・救護所として指定された避難所では、トリアージを行い、応急処置や重症患者の災害拠点病院への搬送の訓練も実施された。

・16箇所の避難所では炊き出し訓練が実施された。

・警察や消防団による家屋倒壊現場での救助訓練や倒木撤去訓練、海上保安庁ヘリコプターによる救出訓練なども行われた。

▼シェイクアウト訓練



▼津波避難訓練の様子

▼救護所運営訓練の様子

▼避難所の様子

11月５日（日）13:00～15:00 訓練実施後ワークショップ

・地震・津波防災訓練全般の振り返りを、シンポジウム形式で実施した。
・アドバイザーからは今回の訓練のキーワードとして「連携」「地域孤立、分断（にどう対応するか）」「若年層の参加」が挙げられた。
・会場の参加者からは、子ども主体の訓練の実現や、子どもが率先して逃げるよう意識づける必要性について意見があった。また新しい医療拠点の建設についてもその必要性を認識する声が大きかった。

▼ワークショップの様子

令和５年度地震・津波防災訓練
（内閣府・和歌山県串本町）

実施報告書
（概要版）

和歌山県串本町について

和歌山県串本町は本州最南端に位置する。町内の潮岬は、東京の八丈島とほぼ同緯度である。東西に長いリアス式海岸は、橋杭岩など雄大な自然美に恵まれ、吉野熊野国立公園の指定を受けている。

黒潮の影響で年間平均気温は17度前後あり、総面積約135km2の8割は山地が占める。カツオや伊勢海老、マグロなどの海産物、キンカンやポンカン、さつまいも「なんたん蜜姫」などの農産物が名産である。

人口は約14,000人で高齢化率は50%近い。町の沿岸部は周期的に起こる地震や津波により過去に大きな被害を受けており、「南海トラフ地震津波避難対策特別強化地域」に指定されている。

町は、これまでに和歌山県の「津波から『逃げ切る！』支援対策プログラム」により３連動地震の津波避難困難地域として10地区が対象とされており、避難路整備や避難ビル指定、堤防・護岸整備などに取り組んできた。特に公的施設の高台移転を進めており、病院や消防署などに続いて2021年には役場庁舎も移転した。

各地域の自主防災組織等による防災訓練にもつとめている。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和5年11月19日（日）午前9時頃、紀伊半島沖から四国沖を震源とするマグニチュード9．1の大地震が発生。その後気象庁から、串本町沿岸に大津波警報（特別警報）が発表された。

■実施日時：【訓練実施前WS】　令和5年10月28日（土）13：00～15：00
【地震・津波防災訓練】令和5年11月19日（日）9：00～11：30
【訓練実施後WS】　令和5年11月19日（日）11：30～14：15

■主　　催：串本町、内閣府

■参加者数：約50名

■参加機関：堀笠嶋区の自主防災組織、串本古座高校教員・生徒、串本町

■訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、避難所開設訓練、防災講演会等

■訓練の特色：「健康・体力づくり」の視点を避難行動につなげることを重点に訓練

訓 練 の 成 果

【成果】

○串本町の課題である、高齢者の避難の迅速化について、避難しやすい体づくりや近所での声掛けなどの重要性を啓発できた。また毎年同じような避難訓練をされてきたなかで、今後の訓練のあり方として新しい視点を提供できた。

○津波避難を速やかに行ううえで前提となる自宅玄関への動線の確保、避難路における障害となるものの有無、さらには避難所の設営等について意識を深めることができ、今後取り組んでいく課題を明らかにする機会となった。

【課題】

○津波避難訓練では、各自宅から避難所（高校体育館）までの移動に要した時間の計測を行ったが、今回のモデル地区では現時点においては平均して約7分要しており、また約4分の1の人は10分以上要した。

○訓練に参加した約半数の方が周辺に要支援者がおり、その方たちを支援する意思をもち、また周辺で避難について話し合ったことがある。要支援者ごとにどのような支援が望まれているかを地区単位で情報共有していくことは有意義と考えられる。

○バイクで避難された方もおられ、車避難を望む方もおられるなか、今後は発災時の車での避難をどのようにするか、地区ごとでの検討が必要。

○上記の点が明らかになったことから今後、個別に検討し対策をとることが望まれる。

10月28日（土） 13:00～15:00 訓練実施前ワークショップ

・町から地震・津波防災についての問題意識と11/19訓練について説明があった。
・アドバイザーから「災害にも対応できる自分と地域の体力づくり」と題した講演があり、健康や福祉、近隣のコミュニケーションが、発災時の迅速な避難に役立つとの問題提起があった。

▼ワークショップの様子

▼アドバイザーから講演
（兵庫県立大学 澤田准教授）

11月19日（日） 09:00～11:30 地震・津波避難訓練

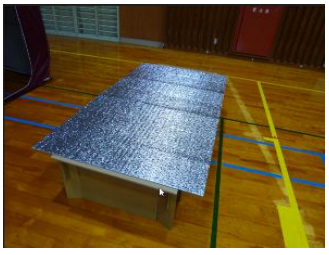
・11月19日（土）午前９時に南海トラフ地震・津波の発生を想定しシェイクアウト訓練を開始。９時10分から津波避難訓練を行った。
・メイン会場の串本古座高校体育館では、避難所開設訓練を行った。避難所の開錠の仕方の説明や、段ボールベッドなどの設置方法の説明と使用体験などを行った。
・アドバイザーから「振り返りとこれからのこと」と題した講演があり、協力しあえる取組の積み重ねが発災時対応に役立つとの示唆があった。

▼シェイクアウト訓練

▼避難所への津波避難訓練

▼避難所の開錠の仕方の説明

▼段ボールベッドの設置方法などの説明



11月19日（日） 11:30～14:15 訓練実施後ワークショップ

・午前中の訓練終了後、休憩を兼ねて、非常食（アルファ米）の昼食。
・町作成の体操DVDを視聴しながら、特に避難に重要な下半身を強化するものを全員で実施。
・内閣府から南海トラフの情報提供後、質疑応答。
・町長挨拶で終了。

▼体操

▼質疑応答の様子

令和５年度地震・津波防災訓練
（内閣府・徳島県鳴門市）

実施報告書
（概要版）

徳島県鳴門市について

徳島県鳴門市は徳島県の東北端、本州と四国を結ぶ東玄関に交流拠点都市として位置する。人口は約５万４千人。北部は瀬戸内海国立公園に指定され、鳴門海峡の急流と逆巻く渦潮は景勝地である。恵まれた自然や歴史、文化などの観光資源を有機的に結んだ広域観光誘致事業の展開、地域特産物（鯛、ワカメ、さつまいもなど）の品質確保と供給力の向上を目指している。供給基地としての体制づくりを進めている。

市は全国に先駆け「地域防災計画」に日常生活の質を高めつつ、おのずと災害時に備えに繋がるフェーズフリーの概念を取り入れ、推進している。人口減少・少子高齢化の進行する中で都市機能や居住を集約・誘導しながら、各地域を交通で結び、持続可能で住みやすく、活気があり、同時に災害にも強い都市形成を目指し公共施設・道路・公園などの整備・維持管理等にフェーズフリーの考え方を都市全体に日常で施設の利便性を高め、あてはめてることで災害時は避難場所・物資保管場所として活用、救助活動・救急搬送の円滑な実施に繋げる。

今回の訓練ではフェーズフリー認証施設を避難場所として訓練を行い、シェイクアウト、情報伝達、津波避難、安否確認等の各訓練を行い、地域防災力の更なる向上に努めている。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和５年11月５日（日）午前９時30分、マグニチュード9.1の地震（南海トラフを震源とする）が発生、鳴門市において最大震度７を観測、最大7.0mを超える津波第一波が48分後に到達する想定で訓練を実施した。

■実施日時：【訓練実施前ＷＳ】　令和5年10月15日（日）10：00～12：00
【地震・津波防災訓練】令和5年11月５日（日）　9：30～10：30
【訓練実施後ＷＳ】　令和5年11月26日（日）13：30～15：30

■主　　催：鳴門市、内閣府

■参加者数：208名

■参加機関：地域住民、自主防災組織等

■訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、情報伝達訓練、安否確認訓練、防災講話等

■訓練の特色：指定津波一時避難場所、道の駅「くるくるなると（フェーズフリー認証施設）」を避難場所とし、大代、備前島、矢倉地区住民がシェイクアウト訓練、情報伝達訓練の後、徒歩・自転車で避難などの津波避難訓練、安否確認等の実践的な訓練を実施した。
また、同じくフェーズフリー認証施設「ウズパーク」で防災専門家による防災講話を行い、更なる防災意識の高揚を図った。

訓 練 の 成 果

【成果】

○訓練実施前ワークショップでの「事前にやれそうなことリスト」の作成や訓練実施後ワークショップでの「逃げ地図」の作成を通じ、ハザードマップで津波浸水深の確認、個別具体的な移動開始可能時間や避難経路、避難場所（複数）を参加者が現実的に考えました。また、活発な意見交換や防災専門家から過去の災害事例の紹介などで参加者の防災意識の向上が図られた。

○地震・津波防災訓練で、実際の市からの情報伝達要領、避難する施設までの移動時間・移動経路や施設の特徴、行政支援などを実体験として確認し参加者の居住場所の特性に応じた移動手段の選択や地域内の住民同士が、世代を超え協力する重要性など確認し、参加者の防災意識向上が図られた。

【課題】

●モーターサイレンが聞こえにくい地域の存在などの施設・設備の改善、訓練参加者の年齢層が高く若い世代の訓練参加者向上のための施策、観光客などに対する津波避難誘導や避難場所・避難所の検討、外国人に対する案内・説明要領の検討、夜間に避難経路を照らす照明や蓄光式や蛍光方式の案内板や危険個所の表示、荒天時に迅速・安全に避難する方法の検討など、想定外を作らない工夫が更に必要である。

10月15日(日)10：00～12：00 訓練実施前ワークショップ

・地震発生から津波避難行動までの基礎的事項を防災専門家の講義でイメージアップを図り「事前にやれそうなことリスト」作成過程で意見交換、認識共有など、積極的な活動で、理解を深めた。

▼防災専門家 大槻教授（高知大学）の講義

▼ワークショップの様子（市教育委員会）

11月５日(日)9：30～10：30 地震・津波防災訓練

・午前９時30分に巨大地震が発生、48分後に津波第一波が到達する想定の下、市内全域で、モーターサイレンを鳴らし情報伝達訓練、引き続きシェイクアウト訓練、津波避難訓練を実施避難場所（くるくるなると）で安否確認等の訓練を実施した。
・大代、備前島、矢倉地区住民は、徒歩・自転車での避難、３世代での避難など、実践的な訓練を実施した。
・防災専門家による防災講話を行い、更なる防災意識の高揚を図った。

▼津波避難訓練（徒歩）

▼津波避難訓練（自転車）

▼安否確認訓練

▼防災専門家による その場でシェイクアウト

▼市長による訓練講評

▼防災講話（フェーズフリーフェスティバル）

11月26日(金)13：30～15：30 訓練実施後ワークショップ

・津波（東日本震災）の映像及び実動による訓練の状況を映像で共有、訓練の振り返りの後、ワークの「逃げ地図」作成で自宅から避難可能な場所、移動時間を具体化し、活発な意見交換、認識共有など防災意識向上を図った。

▼ワークショップ「逃げ地図」作成の様子（うずしお会館）

令和５年度地震・津波防災訓練
（内閣府・徳島県小松島市）

実施報告書
（概要版）

徳島県小松島市について

徳島県小松島市は、徳島県の東部海岸に位置し、市域は東西９．１km、南北８．５km、面積４５．３７㎢である。地形は、市中央部は勝浦川の沖積による小松島平野と那賀川の沖積による立江、坂野両平野 が広がり、これを囲むように北は日峰山、西は勝浦川、南はゆるやかな田野・赤石の山地、東 は紀伊水道に位置した豊かな自然に恵まれた地形をなしている。気候は、年間を通じて温暖であり、冬でも気温が氷点下になる日はほとんどない。年間の平均降水量は、１，５００㎜程度で瀬戸内地方に比べると非常に多く、温暖多雨な南海型気候に近いと考えられる。人口は約３万５千人で、老齢人口の増加による地震時の被害の拡大が懸念される。

市は、南海トラフ地震等が発生した場合に備え、毎年、市の総合防災訓練等を行っている。

令和５年度は、市立児安小学校校区を訓練対象地区として、実動によるシェイクアウト訓練、津波避難訓練及び避難所開設訓練等を行った。次年度以降も、市内の校区等を対象とした総合防災訓練や研修会等の実施を推進することで、市民・自治会等の防災意識の高揚や地区防災計画策定に関して啓発する等、本年度の訓練成果を拡充し、自助・共助の強化及び地域防災力の更なる向上を図っている。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和５年11月12日（日）午前９時、南海トラフを震源とした強い地震が発生、小松島市において最大震度７の激しい揺れに襲われ、市内各地で甚大な被害が発生するとともに、徳島県沿岸部に大津波警報が発表されたとの想定で訓練を実施した。

■実施日時：【訓練実施前ＷＳ】　令和5年10月19日（木）18：00～20：00
【地震・津波防災訓練】令和5年11月12日（日）　9：00～11：30
【訓練実施後ＷＳ】　令和6年１月19日（金）18：00～20：00

■主　　催：小松島市、内閣府

■参加者数：577名

■参加機関：児安小学校校区地元自主防災会、小松島市警察署、小松島市消防本部、消防団、小松島市社会福祉協議会、防災関係機関

■訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、情報伝達訓練、避難所開設訓練、炊き出し訓練等

■訓練の特色：令和５年度小松島市総合防災訓練と併せた訓練・各種体験・装備品展示を実施し、避難所となる市立児安小学校の全校児童等がシェイクアウト訓練に参加するとともに、津波避難訓練では市として初となるペット同行避難訓練・講習会を実施した。

訓 練 の 成 果

【成果】

○児安小学校校区の地区を訓練対象として、防災行政無線により地震発生及び避難開始の放送を実施し、自宅から指定避難所である児安小学校への避難を実動により実施し、自主防災会による避難所開設訓練や炊き出し訓練を実施するとともに、児安小学校では様々な体験や展示ブースを設置し、地域住民や児安小学校児童の防災に関する知識の習得や防災意識の高揚を図ることができた。

○訓練実施前・実施後ワークショップと地震・津波防災訓練を連接させることにより、訓練の成果を効果的に引き出せることができた。
訓練実施前ワークショップでは地区ごとのグループにより、防災マップを作成して、地域の防災上の特性や被害軽減策を住民自ら検討し、実動訓練における避難行動に反映させた。訓練実施後ワークショップでは、実動訓練によって明らかになった課題についてグループごと対策を検討・発表し参加者全員で共有した。最後に、防災専門家の「地区防災計画」の意義と重要性に係る講義を実施し、平素からの備え、防災意識の高揚を図った。参加者からは、アンケートにおいて地区防災計画について作成するべき又は、あった方が良い」との意見が大半を占めた。

【課題】

●研修会等に実施よる地区防災計画の普及・啓発の推進や、より多くの方々（住民、自主防災組織、学校・事業所等）の訓練参加が必要である。

10月19日(水)18：00～20：00 訓練実施前ワークショップ

・防災専門家（ファシリテーター）により防災マップを作成し、地区の災害リスクを理解し、避難にあたっての課題と対策について活発な討議を実施し、「地区防災計画」の概要について理解を深めた。

▼防災専門家 金井講師（徳島大学）の講義

▼ワークショップの様子（児安公民館）

11月12日(日)9：00～11：30 地震・津波防災訓練、小松島市総合防災訓練

・午前９時に南海トラフを震源とする巨大地震が発生、市内で震度７を観測し沿岸部には大津波警報が発表されたとの想定の下、児安小学校校区の地区でシェイクアウト訓練、津波避難訓練を実施した。
・指定避難所となっている児安小学校では、避難所開設訓練、炊き出し訓練を実施するとともに、併せて実施された市総合防災訓練では様々な体験・展示ブース等が設置され、更なる　防災意識の高揚を図った。

▼児安小学校児童のシェイクアウト訓練

▼津波避難訓練

▼津波避難訓練（校舎３階への避難）

▼ペット同行避難訓練

▼避難所開設訓練

▼炊き出し訓練

令和６年１月19日(金)18：00～20：00 訓練実施後ワークショップ

・訓練実施前ワークショップの討議結果を共有し、防災訓練を振返りで明らかになった課題を抽出し、その対応策を防災マップ上で津波対策を考えるワークショップを行った。
最後に地区防災計画の意義と重要性について改めて啓発し、地域の防災力の向上と今後の研修・訓練等の効果的な実施に役立てる契機とした。参加者の大半からワークショップを通じて訓練の必要性や地区防災計画の必要性について意識が高まったとの意見が聞かれた。

▼ワークショップの様子（小松島市役所）

令和５年度地震・津波防災訓練
（内閣府・大分県日出町）

実施報告書
（概要版）

大分県日出町について

大分県日出町は、大分県の中北部、国東半島の入口に位置し、南は別府市、北は杵築市に接しており、北西部は山岳高原地帯で山林が大部分を占めるが、南東部は海岸段丘のなだらかな丘陵地帯で農地、市街地及び集落が広がっている。大河川はなく金井田川をはじめとする２級河川が別府湾に注いでいる。海岸線は延長約25ｋｍにわたり、海食崖をなすところが多いが、海底は遠浅である。

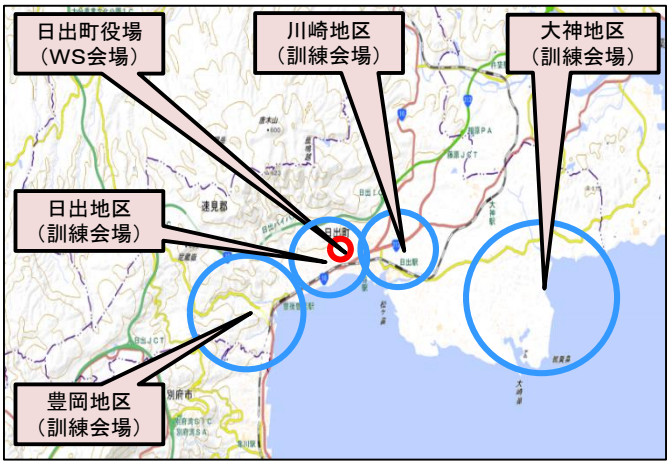
周辺地域には中央構造線断層帯や日出生断層帯など数多くの活断層が分布し、南西部には鶴見岳伽藍岳などの活火山が位置している。

気候は、瀬戸内海型気候区に含まれ温暖であり、海岸部は無霜地帯である。雨量は比較的多く、降雨量の大部分は梅雨期と台風シーズンに集中している。

日出町では、毎年３月第１日曜日を町一斉避難訓練の日として住民の自主防災組織が中心となり各種災害からの避難行動などの実践的な訓練を実施している。

町内43箇所の緊急避難場所と16箇所の避難所を指定するとともに、15箇所の福祉避難所を民間事業者等と協定締結し、災害時の避難先確保に努めている。

また、2021年３月に町ハザードマップを作成し全戸配布して、地域のリスクや避難所等の周知を図り、地域の防災意識啓発に取り組んでいる。



出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和５年11月５日（日）午前9時、マグニチュード9.1の地震（南海トラフを震源とする）が発生、日出町において最大震度５強を観測、最大5.01ｍの津波が99分後に襲来する想定のもと訓練を実施した。

■実施日時：【訓練実施前ＷＳ】令和５年10月９日（月・祝）9：30～12：00
【地震・津波防災訓練】令和５年11月５日（日）9：00～12：00
【訓練実施後ＷＳ】　令和５年12月17日（日）9：30～12：00

■主　　催：日出町、内閣府

■参加者数：816名

■参加機関：津波想定区域内19自治区、日出町、杵築日出警察署、日出消防署、日出町消防団、陸上自衛隊等

■訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練・安否確認訓練、情報伝達訓練、避難者誘導訓練、避難者輸送訓練、防災広報（展示）等

■訓練の特色：警察署、消防署及び消防団等による避難の呼びかけ、避難誘導を実施。また、陸上自衛隊の協力を受け、指定緊急避難場所から指定避難所に向け、自衛隊車両による避難者輸送訓練を実施。

訓 練 の 成 果

【成果】

○訓練実施前ワークショップでは、「なぜ、逃げ遅れるのか？」について、高齢者・障害者の増加、近所付き合い・町内自治活動への参加等の減少、正常化の偏見から起こることを参加者が理解し、そのために地区防災計画が必要であることを認識できた。

○地震・津波防災訓練では、計画よりも多くの方が訓練に参加し、沿岸部住民の津波避難に対する関心の高さを確認できた。アンケート結果からは、90%以上の方が10分以内に避難先に避難できたが、高齢者が坂道を徒歩避難する際の、近所や自治会による避難支援及び避難要領の検討等の必要性を認識できた。また、警察署、消防署、陸上自衛隊及び消防団等の防災関係機関の相互協力のもと訓練を実施したことにより、地震・津波災害時の連携要領等を確認できた。

○訓練実施後ワークショップでは、参加者の３／４が地震・津波防災訓練に参加された方で、訓練実施前ワークショップや地震・津波防災訓練が防災意識の啓発に有効であった。アンケート結果では、地区防災計画を「作成するべき」「あったほうがよい」と全ての参加者が回答しており、地区防災計画について話し合う良い契機になった。

【課題】

●今回の訓練は、住民主体の訓練として実施されたが、学校、企業、防災機関及び観光客等の訓練参加や、夜間・荒天時の迅速・安全な避難の実施等、想定外を作らない工夫が更に必要である。

10月９日(月・祝)9：30～12：00 訓練実施前ワークショップ

「なぜ、逃げ遅れるのか？」について、高齢者・障害者の増加、近所付き合い・町内自治活動への参加等の減少や正常化の偏見から起こることを学び、高齢者や障害者の災害体験記事から、「地域全員が助かるために事前にやっておくべきこと」等について話し合いを行い、地区防災計画の作成等について検討するなど、実践的・具体的なワークショップを実施した。

▼防災専門家　鍵屋教授
（跡見学園女子大学）

▼ワークショップの様子

11月５日(日)9：00～12：00 地震・津波防災訓練

・11月５日（日）午前９時に巨大地震が発生し99分後に5.01ｍの大津波が襲来する想定の下、津波想定区域内19自治区においてシェイクアウト訓練、津波避難訓練、避難誘導訓練及び安否確認訓練等の実践的な訓練を実施した。
・また、自衛隊車両を使い避難させる避難者輸送訓練、海水浴客等の避難誘導要領の現地確認、防災広報（展示）を行い、地域住民の防災意識を高め、地震・津波発生時の避難行動等について理解を深めた。

▼シェイクアウト訓練
（日出町役場）

▼津波避難訓練
（津波想定区域内19自治区）

▼安否確認訓練
（津波想定区域内19自治区）

▼避難者輸送訓練
（大神地区）

▼避難誘導要領の現地確認
（糸ヶ浜海浜公園）

▼防災広報（展示）
（中央公民館）

12月17日(日)9：30～12：00 訓練実施後ワークショップ

・地震・津波防災訓練の振り返りを行った後、訓練実施前ワークショップの内容から一歩踏み込んで、津波避難体験記事から「地域の全員が助かるために事前にやっておくべきことと、その時の行動」等について話し合いを行った。
・訓練実施前ワークショップと地震・津波防災訓練の検討結果と合わせ、津波避難についてさらなる理解を深め、継続的な防災訓練及び地区防災計画策定の重要性と必要性を共有した。

▼日出町危機管理室長

▼ワークショップの様子

令和５年度地震・津波防災訓練
（内閣府・鹿児島県西之表市）

実施報告書
（概要版）

鹿児島県西之表市について

鹿児島県西之表市は、本州本土最南端の佐多岬から南東に約40km、鹿児島市から約115kmの距離にある「宇宙に一番近い島、鉄砲が伝わった島：種子島」の北部に位置する。人口は約１万４千人で、島の面積の約45％を占め政治・経済の中心を担っている。年平均気温は19.5℃と大変温暖で、風光明媚、雄大な自然環境に恵まれ、３方を海に囲まれ美しい海岸が多数あることから、サーフィンやダイビングなど、マリンスポーツを楽しめる多くの観光スポットを有し賑わいを見せている。

市は、南海トラフ地震、種子島東方沖地震及びトカラ列島太平洋沖地震等が発生した場合に備え、様々な地震・津波対策を行っている。また、一年の内に４～５回、７月～10月にかけて台風が襲来して農作物を始めとする大きな被害を被る等の実情から、台風常襲地帯特有の対策にも力を注いでおり、各校区を中心とした地域住民等の防災意識も高い。

令和５年度は、下西校区をモデル校区として、避難行動要支援者（高齢者等）の個別避難計画を作成し、実際に実動による訓練を行った。 次年度以降はこの手法をモデルとし市内全校区を対象とした同計画作成を推進することで、市内の各組織・住民等の役割分担を明確化し、災害発生時（恐れのある場合を含む）の情報・連絡、津波避難、安否確認等の充実を図る等、本年度の訓練成果を拡充し地域防災力の更なる向上に努めていく。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和５年11月12日（日）午前９時、マグニチュード8.7の地震（南海トラフを震源とする）が発生、西之表市において最大震度５弱を観測、最大10mを超える津波第一波が29分後に到達する想定で訓練を実施した。

■実施日時：【訓練実施前ＷＳ】　令和5年10月18日（水）18：00～20：30
【地震・津波防災訓練】令和5年11月12日（日）　8：00～13：00
【訓練実施後ＷＳ】　令和5年12月 8日（金）18：00～20：00

■主　　催：西之表市、内閣府

■参加者数：1,865名

■参加機関：市内全域の校区・自主防災会、警察（地元派出所）、西之表市消防団、陸上自衛隊、鹿児島地方気象台等

■訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、情報伝達訓練、安否確認訓練、避難所開設訓練、炊き出し訓練、防災講演会、南海トラフ地震臨時情報に基づく避難行動要支援者の早期避難訓練等

■訓練の特色：南海トラフ地震臨時情報に基づく避難行動要支援者の早期避難訓練（実動）を市として初めて実施するとともに、市内全域を対象に津波避難訓練等や防災専門家等による防災講演会を実施

訓 練 の 成 果

【成果】

○市内全域において、地区防災計画・個別避難計画作成を推進するため、下西校区をモデル校区に指定し、訓練準備段階で避難行動要支援者（高齢者等）の自宅を対象とした事前の測量や住民聞き取り調査を実施して、地域の実情を確認するとともに、地震・津波防災訓練においては、南海トラフ地震臨時情報に基づく避難行動要支援者の早期避難について、モデル校区長・集落長・集落支援員を始め多くの方々の協力・支援により、対象者の自宅から指定避難所への移動・受入等に関する一連の流れを実動により訓練する等、次年度以降の計画作成のモデルを構築することができた。

○訓練実施前・実施後ワークショップ、地震・津波防災訓練を連接させ、各アンケート結果や実動による訓練の状況を映像で確認・共有するとともに防災専門家の「地震・津波からの避難」に係る講義と参加者によるワークにより、特に「地震発生時の危害からの回避要領」「自分が位置する場所の標高の正確な把握」「地震発生後の移動開始までに必要とする時間及び避難場所までの移動時間の把握」の重要性等についての理解を深め、更なる防災意識の高揚を図った。参加者からは、「日頃からの事前準備が大変重要であり、備えなければならない。」という意見が多く聞かれた。

【課題】

●多くの方々（学校・職場、島内滞在者等）の訓練参加や、夜間や荒天時の迅速・安全な避難の実施等、想定外を作らない工夫が更に必要である。

10月18日(水)18：00～20：30 訓練実施前ワークショップ

・自然の突発的な動きから逃れるために、地震時の避難環境に応じた避難行動、津波に備えるための標高の正確な把、的確な安全確保要領の選択について、防災専門家の講義とワークにより理解を深めた。

▼防災専門家 岩船教授（鹿児島大学）の講義

▼ワークショップの様子（市民会館）

▼事前の測量等の様子（9/19～20に実施）

11月12日(日)8：00～13：00 地震・津波防災訓練

・午前８時から南海トラフ地震臨時情報に基づく避難行動要支援者の早期避難訓練を行い、一連の流れを確認した。
・午前９時に巨大地震が発生、29分後に最大10ｍを超える津波第一波が到達する想定の下、市内全域でシェイクアウト訓練、津波避難訓練等の実践的な訓練を実施した。
・市民会館では、避難所開設訓練、炊き出し訓練及び防災講演会（防災専門家、陸上自衛隊、鹿児島地方気象台）を行い、更なる防災意識の高揚を図った。

▼避難行動要支援者の早期避難訓練

▼津波避難訓練（家族で一時避難場所へ）

▼津波避難訓練（消防団による移動援助）

▼安否確認訓練（瀬泊地域一時避難場所）

▼炊き出し訓練（女性分団のｶﾚｰ調理）

▼防災専門家による訓練講評

12月8日(金)18：00～20：00 訓練実施後ワークショップ

・地震・津波防災訓練の実施状況を映像により共有するとともに、これまでのアンケート結果等を振り返り、自宅や集落等における地震津波対策を考えるワークショップを行った。特に、個人・家族・集落でできる避難計画と今後行いたい避難訓練について意見交換を行うとともに災害関連死ゼロを目指した避難所の設営・運営要領等についての理解を深めた。参加者からは地区防災計画・個別避難計画の作成について建設的な意見が多く聞かれた。

▼ワークショップの様子（市民会館）

令和５年度地震・津波防災訓練
（内閣府・鹿児島県奄美市）

実施報告書
（概要版）

鹿児島県奄美市について

鹿児島県奄美市は、鹿児島市から南西に約380kmの距離にある奄美群島の中の奄美大島に位置する。平成18年３月に１市１町１村が合併して発足、島の面積の約４割を占め、奄美群島の政治・経済の中核を担っている。気候は亜熱帯海洋性であり、豊かな自然と多くの景勝地を有し、令和３年７月には世界自然遺産登録が正式に決定、更には、古くから伝承された様々な伝統文化を持ち、相互扶助の精神が根付く人情味にも溢れている。

市は、奄美群島太平洋沖地震を始め、南海トラフ地震、トカラ列島太平洋沖地震等が発生した場合に備え、様々な地震・津波対策を行っている。また、一年の内、台風の影響を５回程度受ける台風常襲地帯でもあるため、台風特有の対策にも力を注いでおり、各自治会・自主防災組織等を中心に地域住民等の防災意識も高い。

令和５年度は、市内全域を対象とした地震津波防災訓練を行い、特に津波被害からの人的被害の局限を図るための実動による訓練を行うとともに、名瀬長浜町においては、地区防災計画の中の避難行動要支援者（高齢者等）を主体とした個別避難計画を作成するための測量や聞き取り調査を行う等、じ後の計画作成のための手掛かり・足掛かりを得た。

次年度以降は、本年度の様々な取り組みを市内全域で実行できるよう、訓練成果を拡充して地域防災力の更なる向上に努めていく。

出典：国土地理院

訓　練　概　要

■訓練想定：令和５年11月19日（日）午前９時、マグニチュード8.0の地震（奄美群島太平洋沖（北部）を震源とする）が発生、奄美市において最大震度６強～６弱を観測、最大８ｍを超える津波第一波が30分以内に到達する想定で訓練を実施した。

■実施日時：【訓練実施前ＷＳ】　令和5年10月20日（金）19：00～21：00
【地震・津波防災訓練】令和5年11月19日（日）　9：00～12：00
【訓練実施後ＷＳ】　令和5年12月10日（日）18：00～20：00

■主　　催：奄美市、内閣府

■参加者数：1,743名

■参加機関：市内全域の自治会・自主防災会、奄美警察署、大島地区消防組合、陸上自衛隊奄美駐屯地、奄美海上保安部、鹿児島地方気象台名瀬測候所、鹿児島県立大島病院、あまみエフエム（協力）

■訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、情報伝達訓練、安否確認訓練、避難所開設訓練、物資配給訓練、防災講演会等

■訓練の特色：市内全域を対象に、シェイクアウト訓練、津波避難訓練等を実施するとともに、防災専門家等による防災講演会を実施
この際、市職員の参集訓練、災害対策本部の立ち上げ訓練を同時並行的に実施して、市民等への情報伝達要領を訓練

訓 練 の 成 果

【成果】

○市内全域で地区防災計画・個別避難計画の作成を今後推進するため、名瀬長浜町において、訓練準備段階に避難行動要支援者（高齢者等）の自宅を対象とした事前の測量や住民聞き取り調査を実施して、地域の実情を確認し、じ後の訓練実施前・実施後ワークショップ及び地震・津波防災訓練の資とするとともに、次年度以降の訓練実施や各種計画作成要領等のモデルケースを構築した。

○２回のワークショップ、地震・津波防災訓練を連接させ、各アンケート結果や実動による訓練の状況を映像で確認し共有するとともに、防災専門家の「地震・津波からの避難」に係る講義と参加者によるワークにより、特に、「地震発生時の身の守り方の要領」「自分が位置する場所の標高の正確な把握」「地震発生後の移動開始までに必要とする時間及び避難場所までの移動時間の把握」の重要性等についての理解を深め、更なる防災意識の高揚を図った。参加者からは、「日頃からの事前準備や訓練の実施が極めて大切であり、備えることが重要」という意見が多く聞かれた。

【課題】

●今回の訓練は、住民が主体の訓練で大きな成果を得たが、今後は多くの学校・職場、災害対策本部の立ち上げ訓練に参集した防災機関、また島外からの観光客（外国人を含む）等の津波避難訓練への参加や、夜間・荒天時の迅速・安全な避難の実施等、想定外を作らない工夫が更に必要である。

10月20日(金)19：00～21：00 訓練実施前ワークショップ

・自然の突発的な動きから逃れるために、地震時の避難環境に応じた避難行動、津波に備えるための標高の正確な把、的確な安全確保要領の選択について、防災専門家の講義とワークにより理解を深めた。

▼防災専門家 岩船教授（鹿児島大学）の講義

▼ワークショップの様子（長浜集会場）

▼事前の測量等の様子（9/26～28に実施）

11月19日(日)9：00～12：00 地震・津波防災訓練

・午前９時に巨大地震が発生、30分以内に最大８ｍを超える津波第一波が到達する想定の下市内全域で、シェイクアウト訓練、津波避難訓練等の実践的な訓練を実施した。

・奄美川商ホールでは、避難所開設訓練、物資配給訓練及び防災講演会（防災専門家、鹿児島地方気象台名瀬測候所講師）を行い更なる防災意識の高揚を図った。参加者は特に市の備蓄品の取扱い・操作要領について、終始熱心積極的に取り組んでいた。

▼津波避難訓練（少しでも高い所へ、少しでも早く！）

▼安否確認訓練（老人福祉センター）

▼避難所開設訓練（奄美川商ホール）

▼防災講演会（名瀬測候所講師）

12月10日(日)18：00～20：00 訓練実施後ワークショップ

・地震・津波防災訓練の実施状況を映像により共有するとともに、これまでのアンケート結果等を振り返り、自宅や集落等における地震津波対策を考えるワークショップを行った。特に、個人・家族・集落でできる避難計画と今後行いたい避難訓練について意見交換を行うとともに災害関連死ゼロを目指した避難所の設営・運営要領等についての理解を深めた。参加者からは「自助・共助」の防災意識が今まで以上に向上した等の意見が多く聞かれた。

▼ワークショップの様子（長浜集会場）